No.26

手軽なビーズ作業

義髙 亙

特支教育では作業という学習があります。

私は作業は、ものつくりや労働を通じて人を育て人と繋がっていくものだと思います。

私は特支学校では木工・栽培・手芸・工芸の作業を 指導してきました。それは別の機会に提示します。特 支学級では作業にかかわるのは特支学級担任だけ です。作業学習が必要だと思う時でも設備も協力体 制もありません。

特支学校のように生徒の特性や指導の方向性を考えて作業班を選択することもできません。私が特支学級で作業も含めて制作活動として行ってきたのはアニメ・アプリ制作、演劇活動、短期的木工制作、手芸制作です。

この場では手芸制作のビーズストラップ作りを提示します。実態把握で生徒の特性をリサーチして、適切な生徒と制作活動を行ってきました。4学級ほど行いました。

この制作の利点は

同じ工程の作業を何度も繰り返して完成させる 活動であること。特支学級で設備と高額な材料調達 が難しくても活動可能なことでした。

私は養護学校の作業でも同様の作業をしていました。最初に運用したときは情緒に課題がある特支学級での活動でした。

落ち着いて一定時間活動することが難しいケースで、安全に、安定した活動にすることが求められました。

作業量を記録していました。 青のラインを見てください。

作業はできるのですが、毎回の作業量が安定せず、できる時と出来ない時の差が大きく課題となりました。意欲を持たせるための自分でビーズの色を選び組み合わせて設計するアプリを開発し自分で設計したストラップを制作するため 設計活動を取り入れました。





作業 ビーズストラップ制作





作業 ビーズストラップ制作

- ・同じ工程の作業を繰り返して完成
- ・容易に設備と材料が調達できる

そして赤のラインが自分で設計したストラップを自分で制作した作業量です。

作業量が増えて、特に日々の乱高下が少なくなり、 作業活動が安定してきたのがお分かりになると思 います。

この時の報告書と作業の指導案です。授業参観で 公開もしています。

設計アプリで自ら設計したものを制作する工程に効果があったと思われます。情緒に支援が必要な場合、指示されてやることに抵抗がある場合があります。自分で設計して作ることで自主性と意欲を高め、活動を安定させることにつながったケースでした。しかし学校で活動すること自体が難しくなり、残念ながら学校での活動は中断することとなりました。長くなりますが、もう少しビーズストラップ制作の作業学習を考えてみましょう。



- ・意欲を高めるため 作るための動機
- ・個に応じたビーズの大きさ形・制作方法
- ・設計アプリで無指示で自主的な活動
- ・人に渡し評価されて意欲づけに

この他にも情緒学級2学級、肢体不自由学級1学級でストラップ制作を行ってきました。短期的には木工作業も行いましたが、設備と費用、事前の準備に手間取り長期間できませんでした。これら手芸制作、ストラップつくりでは、総合的に以下のことを考えてきました。

- 一つ目は作業活動に意欲を持てるよう、つくるための動機を持たせること
- 二つ目はビーズの大きさ形、制作方法を考慮し、個に応じた制作活動ができるように すること
 - 三つめは設計アプリなどで自主的に活動させ自分でやる意欲を持たせることです。

四つ目は人に渡し、評価してもらい、意欲付けと次への制作目的を持たせることです。 それぞれ公開した時の指導案と設計アプリは残っていますが、データは廃棄してあまり残 していませんでした。

設計アプリも個に応じた専用開発としておりそれぞれ技能や目的に応じて微妙に変えて 個人専用の設計アプリにしています。

肢体不自由学級で制作した時のデータが残っていました。緑の線です。

手指の動きに配慮が必要でしたが、作業が進むにつれ、制作できる量が増えています。 手指機能が向上している事が表れていて、制作の中で制作の技能や手指の使い方も向 上していると思います。

他の木工分野等や作業の成果と課題については、また別に触れたいと思います。

END